

大阪フロイデニュース

Freude

vol. 12 12 2019. 2. 27. wed

3/20は由緒ある声に捧ぐ
Gloria Cum Sancto ~ a7-カマ
おそろいしよ!! 頭にキアカマ?

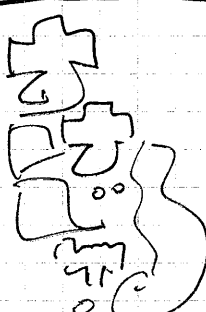
大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

☆ フォットーニといえは...

その生涯もドラマチック!!

略奪婚!

自動車転落事故!



3/6 (水)

18:30~

堀江PMT

↑

あかし
録音

3/13 (水)

18:30~

堀江PMT

↑

あかし
録音

3/17 (日)

13:15~

堀江PMT

↑

あかし
録音

3/20 (水)

18:30~

堀江PMT

↑

あかし
録音

フッチーニの生涯 ... 1/2

- 1858年12月22日イタリア・ルッカに、7人きょうだいの5番目として生まれる。
- 音楽一家に生まれたジャコモ・プッチーニ。5歳のときに亡くなった父親の後継ぎを期待されたが、幼少期は才能が見られず、ぱっとしなかった。母親は根気強く、いい先生に師事させた。
- 教会のオルガニストをしばしば務めていた15歳のときヴェルディ『アイーダ』を観る機会があり、大衝撃！当時彼は、ルッカで伝統あるパティーニ音楽院で学んでいたが、教会音楽がメインでオペラを学ぶには不向きであるとして、ミラノ音楽院を受験してオペラ修行をすることを決意する。
- 1880年パティーニ音楽院の卒業作品として『4声のミサ』（グロリア・ミサ）を完成。こうして彼は、初期の音楽修業と宗教音楽家への道に区切りをつけることになる。
- ミラノ音楽院で1883年まで学んだ後、一幕物オペラのコンクールに応募。応募作「レ・ヴィツラ（妖精）」は落選したものの1884年に舞台化され、出版社リコルディ社主ジュリオ・リコルディに注目されるきっかけとなった。
- 1884年（25歳）母が他界。
- 駆け落ち事件。母の他界後、すぐ、人妻と駆け落ち事件を起こす。相手は夫からの依頼でピアノと声楽を教えていたエルヴィーラ。同棲を始めたプッチーニとエルヴィーラの間には2年後、息子アントニオが生まれるが、エルヴィーラの夫が死ぬ（1903年）まで、私生児扱いだった。（1904年正式入籍）
- リコルディ社の依頼によって作曲されたのが、1889年に完成された2作目のオペラ『エドガール』だが失敗。
- 1891年（32歳）には、トスカナ地方のトルレ・デル・ラーゴに別荘を購入し、終生にわたって仕事場兼自宅とした。プッチーニの亡骸が眠っているのもこの地である。
- 『マノン・レスコー』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』

第3作の『マノン・レスコー』（1893年）は大成功となったばかりか、優れた台本作家ルイージ・イルリカとジュゼッペ・ジャコーザの協力をももたらすきっかけとなった。プッチーニの台本作者に対するわがままぶりは有名で、特に『ラ・ボエーム』では大騒動だったが、間をとりもったのは、リコルディ家の2代目ジュリオだった。引き続き完成された『トスカ』（1900年）はその露骨な暴力描写、主役3人が舞台上で死ぬストーリー、そして扇情的な音楽などが話題となった。

『蝶々夫人』は1900年にロンドンで演劇を観てすぐに構想にとりかかり（間、ヴェルディが亡くなりレクイエムを書くなど中断されるが）日本とアメリカの資料に埋め尽くされながら制作がすすめられた。1902年の春、プッチーニはイルリカのすすめに従って、その頃ミラノを訪れていた日本の有名な俳優川上音二郎とその妻川上貞奴一座のミラノ公演の舞台を観て、限らない啓発と影響を受けた。『蝶々夫人』たくさんの日本の旋律が引用されたことで特筆すべき作品となった。

続きは、マニエリスムの面々、とマニエリスム!!
おぼろげながらも「フッチーニの天才」大募集のしぼり!!